

1. 医薬品の水生生物への影響

環境科学課 平野 真悟・小原 浩史
宗 かよこ・中牟田 啓子

第 37 回九州衛生環境技術協議会

近年、河川水や下水処理水など水環境中からPPCPs (Pharmaceuticals and Personal Care Products)が検出される報告がなされており、水環境中における医薬品の存在に国内外で関心が集まっている。医薬品類は、本来の目的において生理作用を持つため、水中の医薬品類が水域の生態系にも何らかの影響を及ぼすことが懸念されている。本研究では、水生生物への影響があまり知られていない向精神薬を含む85種の医薬品について、オオミジンコを用いた遊泳阻害試験を行った。

この結果、第一種、第二種向精神薬 6 物質については、設定した濃度範囲において明確な影響が見られなかったが、第三種向精神薬の 6 物質については強い影響が見られた。